

< 考査研究 1 > 話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しよう（現代の国語 話すこと・聞くこと）

1 研究の背景

「現代の国語」は、「話すこと・聞くこと」の配当時間が多く、重視されているが、「読むこと」「書くこと」に比べ、実践や評価の方法の蓄積が少ない。しかしながら、「現代の国語」の「話すこと・聞くこと」の領域においても、指導と評価を適切に行うため、パフォーマンス課題と併せて考査問題の特性も最大限生かし、授業内容の充実を図っていく必要がある。「思考・判断・表現」を考査で評価し、かつ「評価疲れ」を軽減するために、単元の目標に沿った考査問題を作成しようと試みた。

2 指導目標

(1) 考査で測りたい力

自分の立場や考えを明確にした上で、論点を共有しながら、相手の反応に応じて話し合いの仕方や結論の出し方を工夫する力

- ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)イ
- ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)オ

(2) 教材

杉田敦 「政治的思考」

宇野重規「未来をはじめめる—『人と一緒にいること』の政治学」

(3) 考査までの流れ（授業展開）

- ① 杉田敦「政治的思考」の本文の趣旨を把握する。
- ② 宇野重規「未来をはじめめる—『人と一緒にいること』の政治学」を読み、話し合いにおける参加者の立場や役割、進行に当たっての工夫について理解する。
- ③ 話し合いに参加したつもりで、とある発言に反論する（パフォーマンス課題）。
- ④ 話し合いの進行役の立場で、どのように表現や進行を工夫するかを答える（考査で評価）。

3 実施した考査問題と採点基準

『政治的思考』の本文を示した上で、日常生活を想定した会話の資料を与え、三つの問いを設定した。会話文は、『未来をはじめめる—「人と一緒にいること」の政治学』を参考にして作成した。

問(1)は、自分の立場や考えを明確にすることを問う問題である。ここでの「自分の立場」とは、話し合いにおける司会進行役の立場のことで、「考え」の道筋は、『政治的思考』の趣旨に沿ったものでなければならない。

問(2)は、問(1)で問われた内容を踏まえ、自分の立場や考えを明確にした上で、表現を工夫することを問う問題である。周囲に遠慮して意見を言えないでいる「Dさん」に対し、「差異を大切にしてい」「一人一人意見を聞く」という『政治的思考』の本文の趣旨に沿い、「Dさん」が意見を言いやすいよう配慮した表現のものが、最もよい評価となる。

問(3)は、論点を共有しながら、話し合いの状況に応じて、進行や結論の出し方を工夫することを問

う問題である。問(2)とは異なり、結論まで出す必要がある。問(3)では、採点のポイントを二つに分け、それぞれ基準を設けて評価した。「話し合いの過程」の項目では、『政治的思考』の「いろいろな人の動き」という内容を踏まえて話し合いを進めているかを評価する。「話し合いのまとめ方」の項目では、これまでに出了意見から論点を共有し、『政治的思考』の本文の趣旨に沿って、全員の意見の調整を図って結論を出しているかを評価する。問(2)、(3)の採点基準の詳細は以下のとおりである。

問(2) 自分の立場や考えを明確にした上で、相手の反応を見ながら表現を工夫することを問う問題

A評価	B評価	C評価
遠慮気味に発言したDさんの真意をくみ取る内容である。 ※『政治的思考』本文の趣旨に沿って考え、かつ進行役として、Dさんの反応に配慮をしながら表現を工夫したもの	Dさんに対して真意を聞こうとした内容である。 ※『政治的思考』本文の趣旨に一部沿って考え、かつ進行役として、Dさんの反応を見ながら表現したもの	Dさんに対する発言である。 ※ 進行役として、Dさんとの会話をすることはできたもの

問(3) 自分の立場や考えを明確にした上で、論点を共有しながら、話し合いの状況に応じて、進行や結論の出し方を工夫することを問う問題

	A評価	B評価	C評価
話し合いの過程を評価	Bさんが意見を変えたこととその経緯を踏まえた内容である。 ※『政治的思考』本文の趣旨に沿って考え、状況に応じて進行の仕方を工夫したもの	Bさんが意見を変えたことを踏まえた内容である。 ※状況の変化は理解して、話し合いを進行したもの	話し合いを継続している。 ※進行役としての立場は押さえることができたもの
まとめし方を評価	Dさんを含め、全員が納得するよう意見を「調整」している。 ※『政治的思考』本文の趣旨に沿って考え、論点(野菜やあっさりしたものも一定量食べられるところ)を共有しつつ、意見の調整を図るなど、結論の出し方を工夫したもの	ほとんどの人が納得できる結論になっている。 ※論点の共有と意見の調整をある程度までは図りつつ、結論を出したもの	「取りやめる」以外の結論が記されている。 ※進行役として結論に向かうことはできたもの

A・B・C評価にはそれぞれ配点がある。本研究では、いずれの問いにおいても、C評価は0点としたが、各校の実情に合わせて配点するとよい。

4 生徒の取組状況と採点の実態

問(1)は客観問題ということもあり、ほとんどの生徒が解答をしていた。問(2)では、無解答は13%で、B評価以上の生徒が77%おり、記述をした生徒はおおむね得点に結びついていた。一方、問(3)では、無解答は31%と増え、書きかけの答案も散見された。記述はしたが、二つの採点項目でどちらもC評価だった6%と合わせると、37%の生徒が得点をしていない状況であった。

採点については、これまでに行ってきた読み取りの記述問題と比べても、採点にかかった時間に大きな差はなく、担当者同士の採点基準のすり合わせに苦労した印象もなかった。要因として挙げられるのは、まず、授業内容も踏まえながら、単元全体における「考査で測りたい力」を念頭に置いて作問したことである。次に、作問と同時に生徒の解答を予測しながら採点基準を定めたことである。こ

れらによって、ある程度明確に採点基準の境界を設けることができ、解答の方向性を絞るための条件を設問文に追加することもできた。考査実施後には、採点者で答案を一緒に見ながら採点基準について再度共有できたことも、効率化につながったと考えている。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

「話すこと・聞くこと」の「思考・判断・表現」を見取るにあたって、パフォーマンス活動に適したものと、そうでないものがある。例えば、今回の授業内容がそうであったように、全員が同じ進行役でパフォーマンスすることが困難である場合や、一人一人の発表やワークシート等の成果物での評価も難しい場合については、考査で評価した方が効果的かつ合理的とも言える。そのことに、作問と評価を通して今回気付けたことは、成果と言える。単元の目標を常に意識し、見取りたい力を、パフォーマンス活動で評価するのか考査で評価するのかを見極め、適切に指導と評価を計画していく必要がある。

(2) 課題

ア 考査実施前

採点と違い、作問には時間がかかった。指導書に掲載してある参考文献や資料からヒントを得るなど、手持ちの材料を効率よく使って作問し、時間短縮する必要性を感じた。

イ 考査実施後

問(1)(2)は前述したとおり、思考の流れをくんで段階的に答えていくことを想定して作問したが、生徒の正答率を見ると、想定とは異なる結果が出た。問(2)でA・B評価の生徒が77%であったのに対し、問(1)では正答率は47%にとどまった。問(1)で正答できなかったにもかかわらず、問(2)では一定の理解を示した生徒がいたことになる。さまざまな要因が考えられるが、設問文に誤解を生む表現がないかどうか、ねらいが伝わる表現であるか、よく精査しなければならない。今回の考査では、問(1)の設問文「Dさんの後に～」を、「Dさんに対して～」とすれば、ねらいがより明確に伝わったのではないかと考えた。

また、段階的に難易度を高めたとはいえ、特に問(3)で、無解答または書きかけの生徒も少なからずいたことから、生徒の解答時間の予測についても課題が残った。制限時間の中で、適切に「思考・判断・表現」を見取ることができるよう、各設問の重さと分量を考慮して考査問題を仕上げる必要がある。

話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しよう（現代の国語 話すこと・聞くこと）

問主 次に挙げる資料は、仲のよい友達同士5人で、夕飯を食べに行こうとしたときの会話である。あなたが他の4人に、何が食べたいかを聞いたところ、次のようになった。これを見て、『政治的思考』の趣旨に沿って考え、後の(1)～(3)の問いに答えよ。

資料

あなた：みんな、何が食べたい？ 私は肉が食べたいなあ。
 Aさん：私もお肉がいいー！ 私は焼肉食べたい！
 Bさん：私も焼肉がいい！。
 Cさん：んー、私は今、和食の気分だなあ。
 Dさん：うーん……ええと……何でもいいよ。私はみんなに合わせるよ。

- (1) あなたがこの話し合いを進行するに当たって、Dさんの後に発言をする場合、まずは本文のどの内容を根拠に話すべきか。次の三つから一つ選び、記号で答えよ。

自分の立場や考えを明確にすることを問う問題

- ア 利害関係を異にする意見の調整をすること
 イ 人との距離感を大事に各々の意見を聞くこと
 ウ すっきりした結論の出ない不透明さがあること

- (2) Dさんへの言葉がけの内容はどのようなものになるか、記せ。（実際のセリフでも、内容をまとめたものでもよいが、言葉がけの意図が分かるように記すこと）

自分の立場や考えを明確にした上で、相手の反応を見ながら表現を工夫することを問う問題

- (3) この会話の後、Dさんの反応を見たBさんが、「やっぱり野菜をたくさん食べたい」と言い出した。この後、何を食べに行くかを決定したが、決定にいたる過程も含めて、どのような結果になったかを説明せよ。その際、誰に、どのような意図で、どのような内容の言葉がけをしたかが分かるように説明すること。ただし、所持金の多寡は行き先の決定に影響しないものとし、「取りやめる」という結果にもならないものとする。

自分の立場や考えを明確にした上で、譲歩を共有しながら、話し合いの状況に依りて、進行や結論の出し方を工夫することを問う問題

話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しよう（現代の国語 話すこと・聞くこと）

(2)

A 評価

- ・みなと同じではないので、差異を大切にするため、苦手なものはないのか、みなとちがうものでも伝えてもよい、ということ言う。
- ・みんなに合わせるのも一つの意見だけど、我慢してないかな？ みんながみんな同じ意見になるとは限らないし、一人一人違ってあたり前だよ。Dさんがどんな意見だったとしても私たちはそれを尊重するよ。

B 評価

- ・焼肉と和食だったらどっちがいい？
- ・Dさん、もし今食べるとしたら何が食べたい？

C 評価

- ・じゃあ、ショッピングセンターのフードコートで食べるのはどうかな？ フードコートだったらお肉系の食べ物も和食もあるし、Dさんはそこについてから選べるからいいんじゃないかな。
- ・お肉食べると元気出るよ!!! どう!?

(3) ※ 実線は採点項目1（過程）、点線は採点項目2（まとめ）の判断要素

A 評価

- ・Dさんが「味の濃い物の気分ではない」素振りを見せたことに対し、Bさんが妥協して「野菜が食べたい」と言った。自分は肉も野菜も和食も食べたかったので、バイキングはどうか考えた。そこでまずAさんに焼肉から肉に妥協してもらったため、「ただの肉でもいいか」とたずねたところOKをもらえた。（一般的にバイキングで和食や野菜はあっても焼肉はないと考えた。）そして全体に、全員が希望のものを食べられるバイキングはどうか提案したところ、全員が賛成したので、バイキングに決定した。【採点項目1・2ともにA評価】

B 評価

- ・「お肉を食べたい人と、野菜を食べたい人と、和食を食べたい人がいるね。」と、全体にまとめの意見を言う。
Aさんに「お肉はお肉でも焼肉じゃなくてもいい。」と許可を取り、全体に「トンカツ屋にしない？ お肉もあるし、和食だし、定食だから野菜をたくさん使ったメニューもあるよ。」と意見をきき、トンカツを食べに行った。【採点項目1・2ともにB評価】

C 評価

- ・じゃあ和食派と焼肉派に分かれて代表者決めて、ジャンケンとかにする？（ジャンケンして焼肉派が勝つ）今日は、焼肉にしよ。次行く時は、B・C・Dさんの意見を優先してご飯行こうよ。【採点項目1・2ともにC評価】